

# 緑窓



青山学院中等部緑窓会会報

第2号

1993年(平成5年)5月1日発行  
 青山学院中等部緑窓会 発行人 飯久保廣嗣  
 〒150 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
 電話 03-3498-5387

## 青山学院校友会創立一〇〇周年記念にあたり

### 親愛なる緑窓会々員の皆様へ

青山学院校友会会長 加藤義雄

緑窓会の皆様方、御機嫌およろしく御活躍されている事心から御喜び申し上げます。

私は校友会長として皆様方に挨拶を申上げることをご大変な喜びとする所でございます。

緑窓会の皆様方の社会への御貢献の御姿を思うにつけても私は只々感激しているでございます。

校友会も本年創立一〇〇周年記念日を迎えることになりました。

一八九三年(明治二十六年)六月二十七日、本多庸一先生をはじめ百数名の校友が集り、「青山同窓会」の発会式を行って以来一〇〇

周年になるのでございます。

このことは誠に有意義なことではありませんか。私共校友が心からこれを祝すると共に校友会の本義にもどり過去を反省すると共に将来への飛躍、特に二〇〇〇年時代に向って大飛躍をなさねばなりません。

その意味に於いて、この一〇〇周年記念の年に当り本年六月二十五日(金)にその記念の祝賀行事を盛大に実施することは誠に有意義なことと存じます。

更にこの記念すべき年に私共はもう一度校友会の目的とする所を省みる必要があるのではないでしようか。

即ち校友会の目的とする所は「会員間の友誼を篤くし、学校法人青山学院の発展に寄与する」ということであります。

緑窓会の皆様はこの目的に向って着々として邁進されておられ私はこれに対し心から敬意と感激と

を致しているのでございます。

前述の通り校友会としては創立一〇〇周年記念として盛大なる記念式典と祝賀会を催すことになっておりますが緑窓会の皆様も大挙し振って御参加下さる様お願い致します。

又校友会一〇〇周年史も目下編纂中であり祝賀会の当日配布申上げる計画であります。皆様方と共に記念史を通じて校友会一〇〇年の歴史にふれ感激をし喜びそして共に敬賀しようではありませんか。

私は緑窓会の皆様が校友会の一員であることを誇りと致しております。

どうぞ皆様方私共しっかりと手を握りあつて校友会の一員であることに自信と、誇りをもつと共に母校への愛着を深めようではありませんか。

皆様校友会の交友の中に飛びこもうではありませんか。そして更に母校の愛情の中に飛びこもうではありませんか。

そしてそれを通して母校の発展に寄与しようではありませんか。終りに親愛なる緑窓会の皆様方の御健勝と御多幸とを心から祈り緑窓会の益々の御発展を祈願して挨拶とさせていただきます。



緑窓会会長のごあいさつ



緑窓会会長 飯久保 廣嗣(1期)

緑窓会の皆様には、ますますご活躍の事とお喜び申し上げます。

皆様のご努力により健全に運営されております。誠にありがとうございます。また、青山学院全体の校友会も今年創立一〇〇周年を迎えることとなります。そして、母校の更なる発展のために青山学院維持協力会も発足いたしました。学校経営が難しくなりつつある状態を踏まえて、卒業生の母校に対する協力がこれから期待されるわけでございます。物心両面で、このことをお覚え下さるよう、お願いする次第でございます。私たちの次の世代には更に充実した日本を代表する教育機関となりますよう願う次第でございます。

激動期を乗り切ろうとする今日、私たちの回りには多くの難問があります。政治が、国会が機能していないことにはじまり、教育、環境、金融システム、エネルギー、外交、国際貢献など枚挙に暇はありません。また、戦後五〇年を二

年後にして、歴史的に見ても大きな転換期を迎えつつあります。このような時期に、皆様方に置かれても、ますますご活躍なさいますよう心よりお祈り申し上げます。

一九九二年度『緑窓会の日』の準備委員会の皆様と、各学年幹事各位のご協力により、今年も恒例の行事が開催される運びとなりました。誠にありがとうございます。青山学院の中等部の伝統をその基盤に据えた『緑窓会の日』が末永く継続することを、心からお願する次第であります。

中等部ニュースあれこれ



青山学院高中部(中等部教頭) 田中俊夫

最近の主なニュースをいくつかお知らせいたします。

○ 昭和二十三年より実に四十五年間の長きにわたって中等部の英語教師として尽力された鈴木衣子先生が定年で退職されました。又退職後しばらく講師として引き続き働いておられた中村三朗先生と田中保先生も退職されました。それぞれの先生がこれからも益々お元気で過ごして下さるようお祈りします。

○ 生徒の身の安全を計るための施設が二つ完成しました。その一つは毎日多くの車が入構する中等部校内の通路路にガードパイプが付設されました。もう一件は本校舎のグラウンド側AB教室前に非常階段が設置され、緊急の場合生徒が避難し易くなりました。

○ カリキュラムに関しては、かなり以前から実施している英・数・国の三教科小クラス制を更に推し進め、英語においては全クラス小クラス制に踏み切りました。技術家庭科においては、男女共修路線に沿い、今のところまだ試行錯誤の段階ですが、男子に調理や被服を教え、女子にも工作技術を習得させております。

○ 二十三年前に建てられた現在の体育館が年々老朽化が進むにつれ、改築の要望があり、目下新体育館建築案が検討されております。近い中にもっと詳しい報告ができるようになればと願っております。

終りに緑窓会員の皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈りいたします。

1993(平成5年度) 収支予算書

青山学院中等部緑窓会

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報作成費	570,000	会費収入	825,000
会報発送費	1,100,000	1993年度入会金	275名
名簿管理費	160,000	維持会費収入	548,000
事務用品費	125,000	通常会員	1,200,000
会議費	25,000	諸収入	50,000
交通費	60,000	預金	50,000
印刷費	20,000		
水道光熱費	12,000		
通信費	100,000		
慶弔費	60,000		
雑費	38,000		
予備費	353,000		
(小計)	(2,623,000)	(小計)	(2,623,000)
次期繰越金	4,270,152	前期繰越金	4,270,152
合計	6,893,152	合計	6,893,152



## 中等部生近況

中等部緑窓会担当 石出道雄

思わしくない事と思いつつ、あれ程頼りにしていた業者テストが一気に崩壊し、代わりに話題を集めているのが、進学時の内申書に記入される中学校時代のボランティア活動とその評価でしょう。

もともと「ボランティア」という考え・習慣が無い日本で、「評価を絡ませたボランティア活動」は日本的発想にはかならないと思います。

本来の「ボランティア」は、感謝を受けたり評価とは無縁で、感謝を受けるため・良い評価を得るために行なうボランティアは、聖書(マタイ6章)の偽善者の祈りであり、その本来の意味から大きく逸脱した行為になり下ってしまっています。

現在、中等部では次のようなボランティア活動が行なわれています。

●校内清掃(四月・九月)

●聖書・讃美歌販売(四月)

●老人ホーム清掃(七月)

●観光地(丹沢)のゴミ拾い(八月)

●老人ホーム慰問(十一月)

●UNICEF募金への協力(十二月)

毎回、その活動の希望者を募って行なわれており、どの活動時もある生徒の七、十%の参加者(協力者)を得ています。

ボランティア活動が、中学生という年代になかなか受け入れられないのは、「面倒くさい」「照れくさい」等、いろいろな理由があるようです。でも、中等部生に関して見ると、このような理由を乗り越え、本来のボランティアの意味を理解して参加しています。これも、キリスト教主義学校で学んでいる表れだと思います。今後、これらの活動に参加・協力してくれる生徒が一層増えてくることを祈っています。

## 思い出は星のまたたき



この三月で私は中等部を退職した。四十五年という長い歳月、十二歳から十五歳の少年少女と接して過ごすことができたのは、幸運の一語に尽きる。思い出は走馬灯のように私のあたまのなかを駆けめぐる。

その質問に私がきちんと答えられなかったEさん。

混んだ都電で手首をガラスに突っこんで怪我をしたTさん。

教室の一番うしろの席でいつの間にかお弁当を食べおわっていたEさんたち。

椅子をストロープで燃してしまい、つらい姿勢で腰かけたふりをしていたWさん。

鈴木衣子

修学旅行にほうきを持っていったOさん。

教室の床を踏み抜いて、足が抜けない私を助けてくれたTさんたち。

デフォルメ似顔絵の名手、Yさん。

難病に耐えたFさん。

すこむとこわかったSさんたち。

旅先の東北の牧場で、ひとりで見えていた悲しみのFさん。

そして、十代でこの世を去ったあの顔、この顔……

こうして思い出は私の心にまたたきつづける、満天の星のように。

(一九九三年三月)

鈴木衣子先生は一九九三年三月三十一日付で中等部を退職されました。緑窓会員の中には親子二代にわたって教えを受けた人達もいます。特に一文を寄せていただきました。



### 飯久保会長、 学校法人理事に

一九九二年四月付で飯久保廣嗣緑窓会長は、学校法人青山学院理事に選任されました。

### 中・高一期会のお知らせ

日時 一九九三年  
十一月二十日(土)  
午後一時三十分より  
会場 東急文化会館

### 20期同窓会のお知らせ

日時 六月五日 午後六時  
会場 「遊膳」電話03(3486)0206  
骨董通り、北海道銀行地下一階  
詳細を知りたい方は高木(岩崎)迄  
電話03(3875)2202

一人でも多くの方のご参加をおまちしております。

### 4期同窓会のお知らせ

日時 六月五日 午後六時  
会場 霞会館 港区西麻布三  
一三二二 電話03  
1340319577  
申込先 〒146 大田区下丸  
子三十七九 電話0  
31375912617  
岩嶋恵美子(徳永)

### 28期同窓会のお知らせ

前回の大好評に添えて、緑窓会の当日、28期(昭和52年卒)会を開きます。  
日時 六月五日  
会場 会費 未定  
問い合わせ先  
電話 03135901  
1614  
室岡 誠一  
28期 仁科・鈴木

### 緑窓会役員名簿

1993年3月1日現在

役職	氏名	(旧姓)
会長	飯久保 廣嗣	(宮 治)
副会長	飯久保 外原 志	(山 下)
計	岡松 木山 堅町 中梅 外吉	(中 村)
監	村田 村田 村田 野津 崎川	(三 浦)
運	美洋 凱宏 宏勝	(窪 寺)
委員	子美子 司久	(山 本)

会報編集委員長  
93年緑窓会の日実行委員長

### 各期幹事 (現在期によって人数に異動のあるところがあります)

1	宇田川	清賀世	司子	奥片	平岡	トヨ	ヨリ	(坂)	本
2	原阿	賀義	子夫	柳柳	岡田	ゆ信	り子	(井)	上
3	志伊	俊弘	也子	岩岩	田嶋	恵美	子子	(兵)	頭
4	伊伊	美信	子子	黒黒	板板	美勝	子子	(徳)	永
5	三三	加加	郎郎	吉吉	川川	幸幸	久久		
6	柴柴	淑淑	子子	石石	原原		男男		
7	貫貫	秀秀	雄雄	白倉	井持	皓美	茂子	(山)	根
8	山山	照照	子子	門門	田尾	京京	子子	(門)	田
9	鳥鳥	洋和	洋子	王王	野野	凱凱	美美	(窪)	寺
10	細細	宏宏	子子	中中	野野	凱凱	美美	(窪)	寺
11	今今	宏宏	雄雄	熊北	沢村	祐育	子子	(鴨)	志
12	梅梅	美美	二子	谷谷	口口	嘉嘉	美美	(中)	尾
13	岸岸	百百	代代	黒黒	沼沼		健健		
14	荒荒	政政	弘弘	吉脇	田田	恵恵	子子	(原)	田
15	矢矢	直直	博博	脇脇	口口	清清	司司	(村)	田
16	松松	利利	子子	高高	本本	恒恒	美美	(村)	高
17	山山	啓啓	一邦	西西	木木	由由	子子	(石)	岩
18	斎斎	陽陽	明明	須須	藤藤	千千	子子	(石)	村
19	大大	陽陽	子子	大	沢沢	那那	子子		
20	真真	陽陽	三三	小	池池	玲玲	美美		
21	小小	陽陽	薰薰	田	井井	晴晴	子子		
22	竹竹	陽陽	子子	部部	会会	美美	子子		
23	古古	陽陽	三三	渡渡	田田	友友	子子	(石)	堂
24	塩塩	陽陽	薰薰	山山	科科	美美	子子		
25	岡岡	陽陽	子子	仁仁	田田	広広	子子		
26	加加	陽陽	一里	小小	橋橋	文文	信信		
27	三三	陽陽	子子	高	西	知知	也也	(柳)	
28	上上	陽陽	子子	西	今	花花	子子		
29	安安	陽陽	子子	今	鹿	真真	子子		
30	鈴鈴	陽陽	子子	戸戸	戸	実実	子子		
31	木木	陽陽	子子	清清	池池	衣衣	子子		
32	村村	陽陽	子子	土土	山山	大	子子		
33	本本	陽陽	子子	岡岡	永	紀紀	子子		
34	森森	陽陽	子子			千千	子子		
35	脇脇	陽陽	子子			幸幸	子子		
36	田田	陽陽	子子			純純	子子		
37	谷谷	陽陽	子子			品品	子子		
38	藤藤	陽陽	子子			晴晴	子子		
39	城城	陽陽	子子			寬寬	子子		
40	主主	陽陽	子子				子子		
41	辺辺	陽陽	子子				子子		
42	本本	陽陽	子子				子子		
43		陽陽	子子				子子		

### 緑窓会選出校友会評議委員

1	飯久保	廣嗣	嗣子	(宮 治)	1	河外	野崎	誠一	一司
1	飯久保	廣嗣	嗣子	(宮 治)	2	河外	野崎	誠一	一司
3	飯久保	廣嗣	嗣子	(宮 治)	5	河外	野崎	誠一	一司
9	飯久保	廣嗣	嗣子	(宮 治)	11	河外	野崎	誠一	一司



# 一九九二年「緑窓会の日」

一九九二年「緑窓会の日」は原点・祝祭・継続のテーマで、五月九日(土)青山学院大学礼拝堂・青学会館で開かれました。

「緑窓の日」は中等部の生徒であつた少年少女時代に帰るといふ趣旨を生かして懐しい母校に集い、会合の中軸としては礼拝を持ち、更に講演、コンサートで彩りを添え、毎年必ず実施してゆこうと決めていきます。

本年は、礼拝の説教者に短大講師で緑窓会員(14期)でもある野村祐之氏を迎え、「命輝く彼方に」をテーマに、ご自身の肝臓移植手



術を受けられた体験を通しての、人間の生命と信仰について、感銘深い貴重なお話をうかがうことができました。引き続き、短大地下

食堂における懇談のテイータイム、そしてイルカ・コンサートが行われました。特に中等部在校生神部冬馬君の保護者でもあるイルカさんには「緑窓会の日」の趣旨に快く賛同いただき、全国コンサートツアー会場に準じた大掛りな舞台、照明、音響効果、そしてバックバンドによる素晴らしいライブを提供していただき、五〇〇名を

超える参加者にも堪能したことを思います。また古田十郎初代中等部長をはじめ、懐かしい恩師も多数参加いただき、有意義なひとときを過ごすことができました。この場を借りて参加いただいた皆さまにあらためて感謝申し上げます。

今年の緑窓会は六月五日に決まりましたが、昨年以上の大成功を期待し、一人でも多くの参加をお

待ち申上げます。

一九九二年「緑窓会の日」実行委員会

委員長 飯村 肇(3期)

## 事務局だより

副会長 余 語悦子

事務局は、毎週火曜日の午後、間島記念館三階の一室で、五、六、九、十各期のご協力のもとに開いております。

今年度も「緑窓会の日」が六月五日と決まりました。夫々の係りの方が活動をはじめました。特に名簿係りは、ご案内、会報の発送の為のラベルを出してもらいますので、台帳整理が大変でした。

平成三年の会則改正により集めはじめました会費

も、会員の方々のご協力のもと、続々と集まっておりますが、振込用紙を出しまして一年もたちますと、ほつほつといった感じは、やむを得なくなりました。今年もまた未納

## 1992(平成4)年度 収支計算書

青山学院中等部緑窓会

自 1992年(平成4年)4月1日  
至 1993年(平成5年)3月31日

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報作成費	510,966	会費収入	
会報発送費	973,335	1992年度入会金	822,000
名簿管理費	85,186	274名	
事務用品費	13,077	維持会費収入	1,120,250
会議費	13,459		
交通費	66,890		
印刷費	11,299		
水道光熱費	12,000	諸収入	
通信費	59,101	預金利息	14,342
雑費	25,473	名簿収入	8,000
	82,085		
(小計)	(1,852,871)	(小計)	(1,964,592)
1992年緑窓会の日補助金	580,472		
(累計)	(2,433,343)	(累計)	(1,964,592)
次期繰越金	4,270,152	前期繰越金	4,738,903
合計	6,703,495	合計	6,703,495

## 編集委員会から

一年があつという間にたつて、もう第二号の季節です。緑窓会の日はことしは六月、遅い分だけ余裕はあるかと思つていましたが、やはり慌ただしい追込みとなりました。前号発刊後の要望を入れて活字を見やすく大きくしました。

会員の方に、振込用紙を同封いたしますので、よろしくお願ひいたします。なお、すでにお振込みいただいた方にも、用紙が同封されることがあるかと思いますが、その節はご放念下さい。

事務局でお手伝いくださる方のご推薦をお待ちしております。



### 今年の緑窓会の日は 六月五日(土)です

他行事との関係もあって、ことしの緑窓会の日は例年より遅く、六月五日としました。

緑窓会ならではの心のこもった礼拝には、ICU教授の古谷安雄先生をお招きし、質素な楽しいパーティーも例年通り、更に五期卒業生、ムッシュこと、かまやつひろしさんをゲストに「青山学院とミュージックグラフィティ」(仮)のひと時を過したいと思えます。

### 古屋安雄(ふるややすお)

一九二六年上海生れ。一九四六年自由学園男子部卒業。一九五一年東京神学大学卒業。

一九五二年から五七年まで、サンフランシスコ神学大学、プリンストン神学大学、チューリッゲン大学に留学。一九五七年、プリンストン大学神学博士。

日時 六月五日(土) 午後二時～五時  
場所 青山学院講堂

一、礼拝 午後二時

説教 古屋安雄氏 ICU教授

二、ティータイム 午後三時 短大食堂

三、ムッシュかまやつひろしの青山学院とミュージックグラフィティ

ゲスト かまやつひろし氏 五期卒

四、会費 一名 三、〇〇〇円 大学生以下 一、〇〇〇円



かまやつひろし

### かまやつひろし

戦後DENを聞き、センチメンタル・ジャーニーその他を耳で覚える。父ティーブ警備は中国の兵役から帰国。ニューパシフィックバンド、スターダスターズ、ベギ

ー葉山、石井好子、秋吉敏子らと共にジャズ界で活躍開始。ムッシュ自身も大きな影響を受け、ジャズ・シンガーになるべくジャズ学校に通った。同級生に平尾昌晃、ミックキー・カーティスがいる。

カーク・ダグラス主演の「ビッグ・スバイダー・ベックの伝記映画」を見てトランペットに興味をもち、トランペットを吹きたいと思うがうまくならず、トランペットが主役であるティキシシー音楽や、ハリー・ジェイムズ等のスウィング・ジャズのレコードを聴き

まくる。

トランペットに挫折後大学に進み、上級生に寺本圭一、ジミー時田等が在籍していた関係からカントリ・ミュージックに興味をもつて、学習院や成城などの学生仲間とアマチュアのカントリー・グループを作った。そのうち当時スターだった小坂一也とワゴンマスタースから声をかけられる。プロ入りである。

ワゴンマスタース、ワゴンエースに在団しながらカントリー・ジエントルマン、スウィングウエストにゲスト出演したりする。当時スウィングウエスト在籍のドラマー田辺昭知氏とは後にスバイダースを結成することになる。

プレスリーを中心とするロカビリーが日本に上陸、大ブームとなった。ロカビリー三人男として平尾昌晃、ミックキー・カーティス、山下敬二郎が人気となったが、続いて新ロカビリー三人男として、守屋ひろし、井上ひろし、かまやつひろしの三人ひろしが売ります。一九六〇年頃である。

テイチクレコードと契約、何枚かのレコードを発売するが、他の二人のひろしに比べてかまやつひろしは今ひとつ。少々挫折。この頃からサンダーバードを結成してジャズを歌い出す。ロカビリーに

続いてツイスト・ブームが上陸、日本では藤本孝らが活躍。

ムッシュかまやつひろしは半年間アメリカに音楽留学、帰国すると加瀬邦彦のグループ、キャノン・ホールに参加。

ベンチャーズのインストゥルメンタルミュージックが上陸、寺内タケシとブルージーンズなどが活躍します。ムッシュは田辺昭知たちとスバイダースの母体を作る。

何回かのメンバーチェンジの後、井上亮之、堺正章、井上順などが参加してザ・スバイダースとなる。ビートルズが世に出たのと同じく同時期、演奏曲目も主にビートルズナンバー。

この時期、ブルーコマッツ、シヤープホークスをはじめにGSブームが到来、タイガース、テンブスターズに至ってヒックを迎えた。

一九七〇年、惜しまれつつ、スバイダースは解散。かまやつひろしはソロ活動に入る。

一九七〇年頃からフォーク音楽活動、七四年、吉田拓郎と違い、「シンシア」を吹き込み、翌年「我が良き友よ」がビッグヒットとなる。

それからは多面化した音楽の時代となる。かまやつひろし自身も難かしい時代だったと言う。そして「旅の歌」のヒットとなる。